

患者さんへ

「整形外科単独の Orthoplastic Approach による脛骨開放骨折

Gustilo typeⅢB の治療成績；日本の重度四肢外傷専門施設からの報告」

脛骨開放骨折 Gustilo typeⅢB：骨を軟部組織で被覆できない骨折であり、骨折治療に加えてマイクロサージェリーの技術も要するため治療が難しい骨折とされています

この研究は、通常の診療で得られた記録や写真を使って行われます。このような研究は、国が定めた指針に基づき、対象となる患者さんのお一人ずつから直接同意を得るかわりに、研究の目的を含む研究の実施についての情報を公開することが必要とされています。研究結果は学会等で発表されることがありますが、その際も個人を特定する情報は公表いたしません。

1. 研究の対象

2013年8月から2021年8月までの期間で重症脛骨開放骨折に対して手術治療を受けられた方。

2. 研究目的・方法

重症脛骨開放骨折を治療するためには整形外科と形成外科の両方の専門的手技が必要です。そのため本来は整形外科医と形成外科医のコラボレーションにより治療します。その治療戦略のことを orthoplastic approach (OPA) と言います。我々の施設では、形成外科医とのコラボレーションではなく整形外科医単独による OPA を実施しています。単一チーム・同一術者で手術をする整形外科医単独の OPA の方が短期間で骨折治療と失われた軟部組織（皮膚や筋肉など）の再建を達成しうると考えています。本研究では、どれくらいの割合で感染症など発生せずに骨折が癒合し（骨がくっつき）、創部の治癒が得られたかを検討します。

研究期間は院長承認から2022年12月までとします。

3. 情報の利用拒否

情報が当該研究に用いられることについて、患者さんもしくは患者さんのご家族等で患者さんの意思及び利益を代弁できる代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、「5. お問い合わせ先」までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

4. 研究に用いる情報の種類

年齢、性別、受傷機序、合併損傷、経過の写真や X 線・CT 画像 等

5. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

湘南鎌倉総合病院 外傷整形外科 二村謙太郎（研究責任者）

神奈川県鎌倉市岡本 1370-1 電話番号：0467-46-1717

（西暦 2021 年 12 月 17 日 作成（第 1 版））